

栄光を称える！！

今年度も全国大会において、商業高校生の活躍がありました。日頃の練習の成果を発揮し、目覚ましい活躍をしてくれた生徒の皆さんお疲れ様でした。

今回の商研ニュースでは、全国大会で活躍された部活動の代表生徒に、全国大会の報告をしていただきました。

第六十九回全国高等学校 ワープロ競技大会

七月二十七日 東京

団体の部 第九位

三沢商業高等学校

ワープロ部 三年 松田 綾乃

今回の全国大会では、団体9位に入賞することができました。全国大会は初体験という部員がほとんどでしたが、会場に着いてからは、今までの大会の経験を生かして素早く準備し、練習を始めることができました。さらに他の高校の様子も見ることができ、今後の練習への良い経験となりました。普段の大会とは違う、強豪が周りにいる環境でしたが、全員ができることをやり全力を出したからこそ、脱行することなく練習の成果を発揮することができました。反省点も多々ある大会でしたが、今回の大会で得た経験や反省点を生かし、これからの大会へ向け役立ててほしいです。



三沢商業高等学校 ワープロ部

個人の部 優良賞

三沢商業高等学校

ワープロ部 三年 松田 綾乃

今回の全国大会は、個人9位で優良賞という結果でした。開催場所が東京となり、

東北大会では練習は本番のように、本番は練習のようにということを意識して練習に励みたいと思います。そして、東北大会では珠算・電卓ともに団体優勝を果たし、来年の全国大会に繋げていきたいです。

珠算競技 個人 応用計算競技 優良賞

三沢商業高等学校

珠算部 三年 松田 友璃

普段通りの成績を残せず、珠算の部で団体第8位という悔しい結果となりました。大会会場での学校の選手を見て、特に優勝した学校の選手は挨拶の声から大きく、結果を残す選手は、技術面だけでなく、相手に対する礼儀もしっかりとしていると感じました。また、これまで競技に集中できていたのは支えてくれる仲間や先生方のおかげであることにも改めて気づかされました。後輩には、支えてくれる方への感謝の気持ちを忘れず、常に本番のつもりで練習することを心がけ、大会では納得できる結果を残せるよう頑張つてほしいです。



三沢商業高等学校 珠算部

珠算競技 個人総合 優良賞 種目別競技 応用計算 優良賞

三沢商業高等学校

珠算部 二年 新館 倅幸和

私は、初めて全国大会に出場し、全国からの強豪が集まるハイレベルな大会を経験してきました。珠算団体8位入賞、個人総合優良賞、種目別応用計算で優良賞という成績を残すことができましたが、今回の結果は納得のいくものではありませんでした。

全国大会を通して、限られたチャンスの中で自分の実力を出し切ることがどれだけ難しいかを実感するとともに、普段の生活態度を見直す良い機会となりました。今後は新人チームで挑む

個人総合競技で優良賞をいただくことができませんでした。ここまで、新型コロナウイルスの影響で大会が中止になり、出場できなくなるのが数多くありました。そのせいで泣きたくなるほどの悔しい思いに駆られることもありましたが、その悔しさも糧にしながら最後まで努力してきたと今胸を張つて言うことができます。と思います。



八戸商業高等学校 珠算部

第三十八回全国高等学校 簿記競技大会

七月二十五日 東京

団体の部 全国出場

三沢商業高等学校

簿記部 三年 古泊 可衣

三沢商業高校簿記部は、全国高等学校簿記競技大会に出場してきました。今年も昨年に引き続き団体の部での出場となりました。今年も県予選会から全国大会を見据えて、昨年は対応できなかった問題に慣れるように部員一人一人が練習に取り組まれました。全国大会当日は、会場の雰囲気にもなれました。これまで培ってきた実力を出し切ることができず、入賞することはできませんでした。しかし、顧問の先生や部員など様々な人に支えられ、全国大会出場まで多くの経験ができたことに本当に感謝をしています。後輩たちも日々の練習に感謝の気持ちをもち、真摯に取り組む、全国大会での入賞を目指し頑張つてほしいです。



三沢商業高等学校 簿記部

電卓競技 個人総合 優良賞

八戸商業高等学校

珠算部 三年 浜道 真穂

私は全国大会で入賞することを目標に日々練習に取り組んできました。今までの大会での反省点であった、普通計算のミスが多いという弱みを克服することができず、全国大会という場でも満足いく成績を残すことができませんでした。しかし、応用計算では自分の最大限の力を出し切ることができ、

第三十四回全国高等学校

情報処理競技大会

七月三十一日 千葉

団体の部 全国出場

八戸商業高等学校

コンピュータ部 三年 大久保 玲菜

私たちコンピュータ部は、情報処理競技大会の全国大会に出場しました。六月の県予選が終わり、全国大会まで一ヶ月。この短い期間で私たちは少しでも高得点を取るために学習に取り組みました。全国大会の問題は、表計算の関数や流れ図が出題される第Ⅱ部の問題が難しく、なかなか点数を取ることができない状況でした。それでも、少しでも良い結果を出せるよう勉強に励みました。そして迎えた大会では、入賞は逃しましたが団体二十位という結果となり、ベストを尽くすことができたと思います。何事も結果を残すためには、毎日の積み重ねが大事であることを大会を通じて知ることができました。この経験を今後の生活にも生かしていきたいです。



八戸商業高等学校 コンピュータ部

第二十六回東北六県高等学校

生徒商業研究発表大会

八月二十七日 岩手

東北大会 優秀賞

青森商業高等学校

情報処理科 三年 澤田 紅采

私たちはネット通販で販路を拡大させることを目標に、雑穀等を取り扱っている地元企業のネット通販サイトの制作・運用に関する研究に取り組んできました。活動の中でターゲットの行動を予測したカスタマイジャーニーを作成しました。班のメンバーと協力し情報収集したり考えたりすることで一人では思いつかない多くのアイデアや意見が出ました。また、メンバーと話し合い、スライドの文字の色や配置、発表

する時の話し方や声の大きさなど東北大会に向けて工夫や改善をしました。これらを通して仲間と協力することの大切さを改めて実感しました。これまでの活動から得た経験を今後に生かし、更に販路を拡大させられるよう活動していきます。



青森商業高等学校のみなさん

東北大会 優良賞

三沢商業高等学校

商業科 三年 種市 瑠美奈

三沢商業高校漁協部会は、東北六県高等学校生徒商業研究発表大会に出場してきました。私たちはこの大会に向けて毎日練習し挑みました。大会直前には、コロナの影響で参加できなくなるメンバーもあり、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、本番ではチーム一人ひとりが自分の役割を果たし、今までで一番良い発表をすることができ、優良賞をいただくことができました。また、他県の高校の発表も素晴らしい。今回の発表を参考に、更に地域社会の課題を見出し、地域の方々や企業、行政と協働して課題解決に取り組んでいきたいと思えます。



三沢商業高等学校のみなさん

インターシップを終えて

弘前実業高等学校

情報処理科 二年 須藤 咲希

私は、田舎館村役場でインターシップを行い、学んだことが二つあります。

一つ目は、役場での基本的な仕事内容です。初めは郵便物の整理、各課への郵便物の送り届け、タイムカードを作成したりと、比較的簡単な作業をさせていただきました。作業の中で特に印象に残っているのは、エクセルを使った簿記です。エクセルや簿記は、学校で学んでいたので、スムーズに仕事を進めることができました。エクセルや簿記を学んできたという人は少

なく、田舎館村役場でも、パソコンを使える人を求めているとおっしゃっていたので、これは私にとってとても有利なことだと思いました。情報処理科で学習することができて、とてもよかったです。

また、役場内だけでなく、田舎館公民館でも、仕事をさせていただきました。公民館では、講習会に必要な資料を配ったり、会場の片付けをしたりしました。公民館では、お客様と触れ合う機会が多く、このような講習会を開催したり、コロナウイルスのワクチン接種の会場となったりすることが多いとおっしゃっていました。会場設営や片付けの素早さが大切になってくると思います。役場では、たくさん仕事内容があり、一つのことを専門的に仕事するわけではなく、それを分担して仕事をしていることを知ることができたのでよかったです。

二つ目は、積極性です。役場では、五分に一回は電話がかかってくるなど、仕事量が多く、とても忙しい職場です。その仕事量についていくには、積極的に行動し、集中力を保つことが必要だと思いました。私は学校ではあまり積極性があるように見えませんが、勉強でも集中力が足りないことがあります。このままでは、役場で仕事する資格がなく、さらに公務員試験も合格できずに終わってしまうので、今からでも変われるように努力していきたいです。公民館での仕事では、テーブルの片付けを頼まれ、片付け終わった後に率先して他の作業にとりかかるといったようにしました。学校でも、このように小さいことから積極的に手伝いなどをしていこうと思えました。役場での仕事体験は、とても貴重なことなので、学んだことを無駄にせず、これからの生活に生かしていけるように頑張っていきたいです。

特集 商業生インターハイ制覇

弘前実業高等学校

商業科 二年 棟方 聖蓮



「やった！勝ったんだ！優勝だ！...：何度も何度も跳ね返された私の夢が叶った。今夏、高知県で開催されたインターハイ相撲競技体

重別100kg級の決勝戦、勝負が決まった瞬間に湧き上がった喜びと溢れた涙が忘れられません。

私は元々ジュニア野球チームに所属していましたが、小学五年生の時に日本テレビ「ぐるナイ金星相撲部」への参加がきっかけで相撲を始めました。以来、週五日の練習をする中で、「相撲で日本一になりたい！」と思うようになりました。幸運なことに、小中学校時代は全国大会に出場する機会は何度かあったのですが、「ベスト16」という壁が立ちました。諦めがかりました。「なして勝てねんだ」と。諦めがつかない私は、夢の実現のために弘前実業高校へ進学して相撲部に入部しました。日々の練習を淡々とこなす毎日目標を失いかけたこともありました。自分自身を見つめて、弱いところや足りないところなどが多分にあることに気づきました。ある時、「このままではいけない、何かを変えなきゃ成長しない」と考え、一念発起し、本気で練習に励みました。もちろん、弘前実業は文武両道を目指す学校です。商業科に在籍しているのも、眠い目をこすりながらも資格取得にも真剣に取り組まれました。インターハイでの相撲内容を振り返ると、自分の良さが多く出た試合だったので「やればできるんだ」と自信を持ち、今後につなげることができました。思い起こせば練習がキツくてきつくて、辛かったことは多々ありましたが、いつも熱心にそして前向きに指導してくださる高橋道尊監督と古川勝一コーチ、楽しい仲間の存在、陰で見守ってくれる両親の大きな支えがあったからこそ頑張ることができたんだと思います。

楽しく充実した高校生活は残り一年ちよつとですが、これからも、決して奢らず、自分を律しながら毎日を通してたいと思います。そして、何よりも感謝することを忘れずに何事も頑張る私でありたいです。



全国制覇した棟方聖蓮さんと監督の高橋先生